

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O170201339		
法人名	社会福祉法人 伏古福祉会		
事業所名	グループホーム藤苑 ～ 1階 はるか ～		
所在地	札幌市東区伏古7条3丁目2-34		
自己評価作成日	令和5年3月3日	評価結果市町村受理日	令和5年4月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201339-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人基本方針 『和顔愛語～いつもにこにこ 言葉 優しく』
事業所理念 『個性を生かし、その人らしく、一人一人を大切に』
『1人ひとりが地域社会の一員として最後の時まで、生き生きと生活できるよう、地域に開かれたグループホームを目指す。』

平成15年6月に開設以来、上記方針・理念を大切に、入居者・ご家族だけではなく、職員同士も同様の気持ちでケアにたずさわり、大切にし、笑顔で心穏やかに過ごせる(働ける)ため、その方々の、『生活の姿』『今』を大切に思えるケアを心がけております。コロナ禍において、出来ることも限られてはいますが、令和4年度の事業方針、『いま、この瞬間(とき)を大切に！』を、今後も大切にしたいケアを心がけたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「和顔愛語」の基本方針の当文言は、利用者支援の指標のみならず家族や地域へも同様とし、更に職員同士が自然で良好な人間関係を築く事により関係する方々全てが紡ぎ合え、豊かな福祉につながるとしている。感染対策により地域交流は自粛であるが、住民から事業所前の除雪援助があるなど温かい支援を受けており、災害時緊急支援での協力体制も維持されている。法人特別養護老人ホームが隣接しており、本部と共に地域中核にある施設として住民への役割や意義も意識した運営である。地域社会に出かけ、又、訪れる方々と触れ合い地域と密着して生活を楽しんできたがこの3年間は関係者全て耐え忍ぶ期間となり、その中でも職員は利用者の今を大切に、智恵やアイデアを出し合い、様々な体操やゲーム、個々の好みの新聞購読や本、DVDなど時々家族の協力も得てサービスを提供している。花火大会や毎月のフラワーアレンジメント、畑作業なども生活を盛り立てる一つとなっている。運営推進会議は中心課題に対して全家族を含む構成員からアンケート方式で意見を聴取し運営に反映させており、人手不足も率直に公表し意見を仰ぐなど書面開催にあっても双方向的な会議運営を推進している。毎月詳細なモニタリングで利用者の現状に即した介護計画を策定し、手厚い医療連携により看取り支援に尽力するなど家族の評価も高い。「和顔愛語」の士気の維持に努め、利用者の安心できる生活を支えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“和顔愛語”、“個性を生かして その人らしく 一人一人を大切に”の法人理念を念頭におき、ケア実践を心がけている。	法人基本方針、事業所理念をパンフレットに明示し、事業所内要所へ掲示している。毎年、事業計画に沿った方針を明文化し、「和顔愛護」と事業所理念と共に実践に向けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、直接お会いしての交流はできていないが、運営推進会議等で色々なご意見(ハガキにて)をいただいている。	町内会との行事での相互交流は自粛しているが、住民の方々とは防災や除雪などで協力が得られている。飲食店とは食事の取り寄せの際に利用者の食べ易い形態の協力が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状地域に向けての活動はできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、入居者の様子や事業所の現状等を報告し、議題やアンケート等でご意見をいただいている。	書面会議で開催し、毎回、事業所内の中心課題について全家族を含む構成員へアンケート調査を実施しており、得られた意見は次回の議事録でフィードバックし運営に反映している。書面会議にても双方向的な会議運営となっている。	議事に事故報告やヒヤリハット、年度途中での職員の入退職状況も載せ、構成員がよりモニターし易い会議環境に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月入居状況等の報告をおこなっている。また、事業運営にて不明な点等があった際には、担当者へ電話等にて問い合わせを行っている。	市や区の担当者とは、介護保険制度に係る指導や助言を得て、適正な運営となるよう協働関係を築いている。管理者は案件ごとに積極的に担当者へ意見を仰いでおり、利用者の利益に資するサービス提供に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をされている入居者の毎月の評価を実施している。また、年2回の自主研修会にて、身体拘束の話し合いを行い、スキルアップを心がけている。玄関は防犯上常時施錠している。	2か月に1度、身体拘束適正化委員会を実施している。今年度の内部研修は「身体拘束について」「身体拘束の現状と改善策」について学んでいる。現在、2名の利用者が身体拘束該当にあり、毎月、緊急やむを得ない身体拘束に関する経過観察・再検討による評価を実施し、家族へ報告している。玄関は防犯上の理由により施錠しているが利用者の出入りは保証されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチロックを含めた3つのロックの研修を行い、入居者様の表情を良く観察し、職員同士がお互いに声をかけあえる環境を心がけています。		

グループホーム藤苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度についての研修資料を見直したり、詳しい職員に質問する等行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約書を渡し、自宅にて読んでいただき、契約当日に質問を受けつつ、重要箇所を口頭でお伝えし、契約を交わしています。契約後も質問等に適宜応じる旨伝えています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	キーパーソンのご家族には運営推進委員になっていただきご意見を頂いています。また、お手紙や電話等で情報交換を適宜行っています。	利用者からは「帰りたい」「家族に会いたい」との要望が主であり、一緒に散歩をしたり納得が得られる言葉を伝えて落ち着いてもらっている。家族からはアンケート調査で多様な意見等が上がり、得られた内容を貴重なものとして適宜運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に理事長や管理者と個人面談の出来る環境を心がけて、実施しています。	理事長は職員と面談し意見や要望、困り事などを聞き取る機会を設けている。人手不足にある現場へ可能な限り法人から応援が得られるように取り組んでいる。現在、管理者は夜勤に多く入ってシフトを補い、職員の働きやすさに配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長との個人面談を通して、職員一人一人を大切な仲間とし、『お互いに助け合う』ことを心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修へ積極的に参加しています。また、日々の業務において互いに評価する場面は認め合い、改善しなければいけない所は意見を言いあう…という関係作りを心がけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市担当者へ相談、他ホームの管理者、看護師等への電話等や、担当業者の方々と情報交換を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が不安に思うことなく、職員に話をして頂ける様、事前にご家族や各関係機関から情報収集し、ご本人の気持ちを聴かせていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを丁寧に傾聴し、ご本人が安心して暮らしていける様、協力して頂きながら一緒にケアを行っていただける関係作りを心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が何ができ、何が出来ないのか、何がしたいのかを見極め、どのように日々過ごしたいかを一緒に考えさせていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にごみ捨てや洗濯、掃除等行うことで、お互いに、"ありがとう、"を言い合える関係が築けるよう、心がけています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お手紙や写真、電話等で様子をお知らせし、変化があった際にはご家族の希望、ホームの考えを直接話、一緒に対応を考えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会自粛にてコロナ前より会える回数は減っていますが、ライン面会や窓越し面会を実施しております。	家族面会は玄関フード内や窓越し、タブレット利用で行っている。看取りの利用者への面会については、感染対策用防護服の着用等を願い、利用者と家族との貴重な対面の時間を支えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で体操やレクを行ったり、そのあとに皆で何気ない話で、入居者同士が会話できる様なきっかけ作りを心がけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に声をかけてもらえるよう、日頃から関りを多く持てるように心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当を中心に毎月モニタリングを行い、話し合いをし、一人ひとりの希望や意向を検討して支援している。	生活の意向等は、その都度利用者から聞き取りや読み取りするなどし、関わりの中で得られたこれらの内容は日誌に記録して、毎月のモニタリングで検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、各関係機関から細かな情報を活用し、共有しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングにそった記録を日誌で報告し合い、全職員が情報共有できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当が毎月の会議でモニタリングを行い、継続すべき事、変更すべきことを話し合い、必要に応じてご家族に相談し、介護計画を作成している。	日々の介護記録にサービス実施状況を文章で記録し、情報を蓄積して毎月モニタリングに生かしている。更に情報交換や話し合いにより利用者の状態像の精度を高め、関係者間の意見等も反映させ現状に即した介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画と連動した日誌を記録することにより、情報共有や課題が見え、活かすことができている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日誌や会話の中からご本人の希望や思いを把握し、本人のニーズに対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中、実施できていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療にて月2回365日24時間体制で対応(体調不良時は随時)主治医や看護師にはご家族や本人の希望を伝えており、決定した医療方針をご家族に伝え、了承を得てから実施しております。直接主治医からお話しすることもあります。	協力医療機関による月2回の往診を受けている。歯科や歯科衛生士の訪問態勢もあり、希望に応じて口腔ケアを受けている。受診後の特別な変化時や特にメンタルや血圧に関する投薬変更の際はその都度家族へ連絡し、受診内容と合わせ個別に記録している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に、訪問看護師が来苑され、1週間の体調変化等を伝えています。訪問日以外でも、医療面で心配な点があった際には、都度電話相談対応しています。内容に応じて主治医とも連携して対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はグループホームでの日常生活状況を病院に伝え、状態把握してもらっています。また、電話、フェイスシートにて情報交換し、入院中また退院時の状態を把握するよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人やご家族の気持ちを聴かせていただき、その時が来た際には、主治医と一緒に人生会議を行い、今後についてのケアについて話し合いをしています。また急変時は主治医、訪問看護師に連絡がとれる体制となっております。	重要事項説明書に「重度化した場合の対応に係る指針」を定め、利用契約時に同意を得て、「看取りに関する指針」も説明している。医師の判断に基づき、関係者間で「人生会議」を持ち、今後の方針を取り決めている。この2年間で数名の看取りに尽力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現状おこりうる緊急時の対応方法をご家族、医師と確認しています。緊急対応の資料を配布し、各自緊急時のケアに対応できるように心がけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震発生時の避難訓練を年2回実施。警報は消防署と連動されており、スプリンクラーも常設。地域住民への通報システム(10名登録)にて、発生後より10分以内に全員へ通報が入るようになっている。今年度もコロナ禍にて職員のみで実施中。	令和3年11月、4年10月に日中想定火災避難訓練を実施し、今年度は新人職員中心に行った。地震発生時における利用者個別の誘導方法を協議した。備蓄品を確保し、自然災害発生時における業務継続計画(BCP)の策定が進み、内容の精査に向けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた生活を送ってもらえるように努めている。その人がどのように暮らしてきたかを考えながらケアに努めている。	その人なりの生活スタイルを尊重し、自由な暮らしを支え個々の尊厳に留意している。個人記録類は保管場所を取り決めている。	「和願愛語」の精神に基づく接遇の維持浸透に向け、毎月のユニット会議で職員個々に和願愛語の体現発表をし合う旨を検討しているので、実現に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自発的に意見や声を発せられる様、指示するのではなく、自分自身で行動できるような声掛けを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆったり、のんびりと個人のリズムで生活できる様な言葉かけを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めや髭剃り等の整容は会話を交えながらお手伝いを行っている。美容室は不定期に利用。		

グループホーム 藤苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理職員が入居者様の希望を聴いたり、体調に合わせ提供。行事食等も楽しみながら摂取している。食後には茶碗拭き等のお手伝いも行ってきている。	夕食は主食・汁物以外の副食を配食サービスに切り替え、朝食・昼食は事業所で調理している。利用者の誕生日には本人の好物を豪華に提供している。アレルギーや嗜好、食事時間の開始も利用者状況に合わせるなど、安心して食事ができるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を毎日チェックし、その日の体調に合わせ、形態を変えたり、嗜好品を提供できるように対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要性に応じ、衛生士による口腔ケアを実施(週1回)食後は個々に合わせた口腔ケア(歯磨き・清拭)を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を日々チェックし、パターンを把握し、声掛けと誘導、本人の希望を聞きながら、一人ひとりに合わせた対応を心がけている。	定時誘導で失禁を軽減している。トイレ排泄が基本であるが夜間のみ居室で排泄用品を交換する利用者もいる。個々に沿う排便コントロールを行っており、夜間排便で課題があった利用者が日中トイレで排便が可能になったり訪問看護師が腸蠕音を確認し適切な排泄支援に向けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘、軟便の方には、下剤のコントロールや食事形態の見直しを、主治医や訪問看護師に相談しながら行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本週2回入浴対応。拒否の強い方には、入浴したくなるような言葉かけや環境作りを行っている。	基本週2回の入浴であるが、入浴を見送りたい場合は無理強いせず対応している。利用者が自ら浴室に向かえるような言葉かけで誘導したり、入浴剤の選択や好きな音楽を流し寛げるようにしている。浴槽を跨げない場合はシャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	のんびる過ごせる様、決まった時間を設けてはいないが自己判断の難しい方には、体調や表情を見極めて、休息を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等は日誌、モニタリングで報告。精神面、身体的に変化がみられた時には、主治医に報告し、指示をもらっている。薬が変更された際にご家族にも連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味・嗜好等をご家族からの情報や、日常会話の中で把握に努めています。家事手伝いやレク等もそれぞれの方の得意な事や好みを持って提供しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策をしっかり行い、天気の良い日には前庭で日光浴や散歩等を行っています。外出行事は行えていません。	感染症対策として頻繁な外出は自粛しているが、天候の良い時期は前庭で日光浴をしたり、畑に出て草取りや野菜の収穫など少しでも戸外で過ごせるようにしている。通院がドライブ外出の機会となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がほしい物や必要な物を希望される時は、預り金から職員が購入、またはご家族にお願いしています。収支は毎月報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がご家族に会いたい、電話したい等の声が聴かれた際に対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々が落ち着くような空間を心がけています。外出できない分、月に1回のフラワーアレンジメントにてフロア内を飾ったり、大きな窓から入る日の光でその日の天候を感じてもらっている。	居間は広くゆとりある空間であり、ダイニングスペースを3か所に分けて設置し、感染対策を行っている。ソファコーナーには低反発座布団を置き、安楽に寛げるようにしている。皆が集いやすく、又、移動し易い動線に配慮している。床暖房やエアコンで過ごしやすい環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの落ち着く場所を探し、穏やかに過ごしてもらったり皆で集まってレクを行ったり、その日の表情や体調を見て座席の配置を心がけています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に住まれていた環境に近づけるよう、大切にしている、お気に入りの物(家具)を持参していただき、安心して過ごせる空間ができるように心がけています。	居室には電動介護用ベッド・マットレス、パネルヒーター、床暖、カーテン、照明器具が備え付けであり、利用開始時に馴染みの家具や加湿器、冷風器などの持ち込みを依頼している。テレビや使い慣れた品々が持ち込まれ、安心できる物を飾っている。動線確保に留意し安全な居室環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リスクの少ない生活環境を作るため、家具の配置や行動の導線等を工夫するように心がけています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201339		
法人名	社会福祉法人 伏古福祉会		
事業所名	グループホーム 藤苑 ～ 2階 あかね ～		
所在地	札幌市東区伏古7条3丁目2-34		
自己評価作成日	令和5年3月6日	評価結果市町村受理日	令和5年4月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201339-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人基本方針	『和顔愛語～いつもにこにこ 言葉 優しく』
事業所理念	『個性を生かし、その人らしく、一人一人を大切に』 『1人ひとりが地域社会の一員として最後の時まで、生き生きと生活できるよう、 地域に開かれたグループホームを目指す。』
平成15年6月に開設以来、上記方針・理念を大切に、入居者・ご家族だけではなく、職員同士も同様の気持ちでケアにたずさわり、大切にし、笑顔で心穏やかに過ごせる(働ける)ため、その方々の、『生活の姿』『今』を大切に思えるケアを心がけております。コロナ禍において、出来ることも限られてはいますが、令和4年度の事業方針、『いま、この瞬間(とき)を大切に！』を、今後も大切にしたいケアを心がけたいです。	

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“和顔愛語”、“個性を生かして その人らしく 一人一人を大切に”の法人理念を念頭におき、ケア実践を心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中、直接お会いしての交流はできていないが、運営推進会議等で色々なご意見(ハガキにて)をいただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状地域に向けての活動はできていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、入居者の様子や事業所の現状等を報告し、議題やアンケート等でご意見をいただいている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月入居状況等の報告をおこなっている。また、事業運営にて不明な点等があった際には、担当者へ電話等にて問い合わせを行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をされている入居者の毎月の評価を実施している。また、年2回の自主研修会にて、身体拘束の話し合いを行い、スキルアップを心がけている。玄関は防犯上常時施錠している。日常ケアではこうでなければならない等の固定概念ではなく、多方面から考え皆で取り組むというチームケアの姿勢を大切に心がけています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチロックを含めた3つのロックの研修を行い、入居者様の表情を良く観察し、職員同士がお互いに声をかけあえる環境を心がけています。		

グループホーム藤苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度についての研修資料を見直したり、詳しい職員に質問する等行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約書を渡し、自宅にて読んでいただき、契約当日に質問を受けつつ、重要箇所を口頭でお伝えし、契約を交わしています。契約後も質問等に適宜応じる旨伝えています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者ご家族様に、運営推進委員になっていただき、運営推進会議等にて意見を聴いています。またご家族にはホームでのご様子をお手紙で伝え、内容に応じては電話連絡し、情報交換を行っています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に理事長や管理者と個人面談の出来る環境を心がけて、実施しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長との個人面談を通して、職員一人一人を大切な仲間とし、『お互いに助け合う』ことを心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修へ積極的に参加しています。また、日々の業務において互いに評価する場面は認め合い、改善しなければいけない所は意見を言いあう…という関係作りを心がけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市担当者へ相談、他ホームの管理者、看護師等への電話等や、担当業者の方々と情報交換を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が不安に思うことなく、職員に話をして頂ける様、事前にご家族や各関係機関から情報収集し、ご本人の気持ちを聴かせていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを丁寧に傾聴し、ご本人が安心して暮らしていける様、協力して頂きながら一緒にケアを行っていただける関係作りを心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が何ができ、何が出来ないのか、何がしたいのかを見極め、どのように日々過ごしたいかを一緒に考えさせていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にごみ捨てや洗濯、掃除等行うことで、お互いに、“ありがとう、を言い合える関係が築けるよう、心がけています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お手紙や写真、電話等で様子をお知らせし、変化があった際にはご家族の希望、ホームの考えを直接話、一緒に対応を考えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会自粛にてコロナ前より会える回数は減っているが、ライン面会や窓越し面会を実施しております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で体操やレクを行ったり、そのあとに皆で何気ない話で、入居者同士が会話できる様なきっかけ作りを心がけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽に声をかけてもらえるよう、日頃から関りを多く持てるように心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分で選択できる方にはどう過ごしていきたいか聴かせていただいたり、毎月のモニタリング会議にて話し合い、一人一人の意向を考えそれに沿って支援させていただいています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人やご家族やご本人からの情報を活用し、入所後も不明なこと等ご家族に話を聞き、ホームでの生活に参考にさせていただき、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の生活スタイルに合わせモニタリングを作成し、日々の日誌に変化など記載し、毎月モニタリング評価し現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心に毎月モニタリング会議を開き、実践すべきケアの継続や心身状況を話し合い、介護計画書を作成しています。職員会議が出来ない時は担当職員と個別で話し合いをしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケアプランに基づいて日誌に記入し、職員間で情報共有をしています。毎月のモニタリング会議にて、話し合い、統一したケアを検討しています。変化がある際は家族含めカンファレンスを開き再作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて訪問歯科(衛生・診療)、訪問マッサージ、訪問理容等、利用しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の中、実施できていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療にて月2回365日24時間体制で対応(体調不良時は随時)主治医や看護師にはご家族や本人の希望を伝えており、決定した医療方針をご家族に伝え、了承を得てから実施しております。直接主治医からお話することもあります。		

グループホーム藤苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に、訪問看護師が来苑され、1週間の体調変化等を伝えています。訪問日以外でも、医療面で心配な点があった際には、都度電話相談対応しています。内容に応じて主治医とも連携して対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はグループホームでの日常生活状況を病院に伝え、状態把握してもらっています。また、電話、フェイスシートにて情報交換し、入院中また退院時の状態を把握するよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に本人やご家族の気持ちを聴かせていただき、その時が来た際には、主治医と一緒に人生会議を行い、今後についてのケアについて話し合いをしています。また急変時は主治医、訪問看護師に連絡がとれる体制となっております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現状おこりうる緊急時の対応方法をご家族、医師と確認しています。緊急対応の資料を配布し、各自緊急時のケアに対応できるように心がけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震発生時の避難訓練を年2回実施。警報は消防署と連動されており、スプリンクラーも常設。地域住民への通報システム(10名登録)にて、発生後より10分以内に全員へ通報が入るようになっている。今年度もコロナ禍にて職員のみで実施中。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士、常日頃より敬意の心をもって、言葉がけに注意しながら関わらせていただいております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の話を傾聴し、希望をくみ取り自己決定できるような声かけを意識して関わらせて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様ひとり一人に合わせて、その方のペースを大事にしています。食事の際、声かけはしますが本人の希望に合わせて遅く対応することもあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、おめかしする方は物品の買い出しを担当職員が行い、毎日できるように支援させて頂いたり、髪染めたい方には毛染めのお手伝いをするもあります。美容室は不定期に入っています。		

グループホーム藤苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとり一人の好き嫌い、アレルギーなどに合わせてメニューを変更したり、好みのメニューを充実させてます、片付けや料理のお手伝い(野菜の皮むき、混ぜる等)一緒に料理をしてもらうこともあります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分のチェック表を記入し量の確認や、状況に応じて高栄養(飲み物やゼリータイプ)を摂取してもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要性に応じ、衛生士による口腔ケアを実施(週1回)食後は個々に合わせた口腔ケア(歯磨き・清拭)を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を日々チェックし、パターンを把握し、声掛けと誘導、本人の希望を聞きながら、一人ひとりに合わせた対応を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘、軟便の方には、下剤のコントロールや食事形態の見直しを、主治医や訪問看護師に相談しながら行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりに合わせての入浴タイミングで(週2回)行い、入浴を楽しんでもらえるよう、好きな方には入浴剤の使用をしています。また、気が乗らない時は無理せず、日や時間を改め、声かけしています。入浴出来ない方には清拭対応をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時間帯でのお昼寝や就寝を自由にしてもらっています。体調に合わせて休む声掛けや介助を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の注意点、副作用等、職員同士で情報共有をし、体調変化時には速やかに医療への相談、薬の調節をしております。錠剤で服薬出来ない方には薬局に粉砕を依頼し、オリゴ糖に混ぜて飲んで貰うなど対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事前に確認したご家族からの生活歴や趣味、嗜好等を参考に、家事が好きな方には食器拭きや掃除等、お花が好きな方には月に1回フラワーアレンジメントを行ったり等、役割を持って楽しんで生活できるよう支援させて頂いております。		

グループホーム 藤苑

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染対策をしっかり行い、天気の良い日には前庭で日光浴や散歩等を行っています。外出行事は行えていません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がほしい物や必要な物を希望される時は、預り金から職員が購入、またはご家族にお願いしています。収支は毎月報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がご家族に会いたい、電話したい等の声が聴かれた際に対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓から、前庭のお花畑を眺めて季節を感じたり、日本の文化を楽しんでもらえるよう、行事ごとに飾り付けをしたり、食べ物を行事食にしたり、季節感を取り入れています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人で過ごしたい方には居室でテレビ鑑賞やお話をされたい方にはリビングソファで一緒に座れるよう配置し会話を楽しんでもらっています。部屋やリビングソファ以外にもテレビを置き、静かに見れる環境など作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に住まれていた環境に近づけるよう、大切にしている、お気に入りの物（家具）を持参していただき、安心して過ごせる空間ができるように心がけています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リスクの少ない生活環境を作るため、家具の配置や行動の導線等を工夫するように心がけています。		

(別紙4-2)

目標達成計画

事業所名 グループホーム 藤苑

作成日：令和 5年 4月 24日

市町村受理日：令和 5年 4月 27日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	議事に事故報告やヒヤリハット、年度途中での職員の入退職状況も載せ、構成員がよりモニターし易い会議環境に期待したい。	現場の現状を伝えることにより、起きてしまった事故やヒヤリに対しての改善案に対して、第三者的視点からご意見をいただき、現場に反映できるようにする。	リスク委員にて毎月事案をまとめ、運営推進会議開催時に都度報告する。	リスク委員にて検討 5月より実施予定
2	36	和顔愛語の精神に基づく接遇の維持浸透に向け、毎月のユニット会議で職員個々の和顔愛語の体現発表をし合う旨を検討しているので、実現に期待したい。	理事長より、法人理念～和顔愛語～を全職員に再度伝えて(4月3日に開催済み)、皆で再認識しあう。	職員個々に目標を決め、達成するための行動を皆に伝え(書面で)、毎月の会議等にてその結果(経過)を伝えていく。	5月に目標を決め、6月会議に発表していく。
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。